



恐竜の色はどうやって調べるの

化石から色は、わからない

今はなくなってしまった恐竜などが、昔いたということがわかったのは、化石が残っていたからです。動物が死ぬと、たいてい土の中の微生物のはたらきで、骨までくさってなくなってしまいます。化石は、水中のどろりの中などで、運よくくさらずに残った動物の骨などが、長い年月で、積み重なってきたどろりの重さにおされて、少しずつ石の成分に置きかえられて、変化してできます。

化石は、歯や骨などかたい部分だけが残ったものなので、やわらかい肉や皮の部分がどんなふうだったのか、わかりません。もちろん、体の色や模様なども、証拠が何も残っていないためわかりません。

想像でえがかれる恐竜の色

しかし、化石の歯や全体の骨を調べることで、今、生きている動物のどれに近い仲間か、体の特長からどんな動き方や生活をしていたか、などがわかってきます。そこで、今、生きているいちばん近い仲間の動物の、体に似た色を想像する人もいます。生活環境や動き方が似ている現在の動物から、体の色を想像する人もいます。図鑑などの恐竜の体の色は、このような方法で想像してかかれたものです。

シベリアのおおった土の下から、全身氷づけのマンモスのオスが発見されたことがありました。恐竜でこんな例があれば、毛や皮ふのぐあいや、体の色もはっきりするのでしょうが、恐竜がいた時代は、今から6500万年以上も前なので、わからないままです。

(監修・今泉 忠明)

